ゆらめく灯籠　水面幻想的に

大沼湖水まつりが開幕

【大沼公園】「第101回大沼湖水まつり」（実行委主催）が24日、渡島管内七飯町の大沼国定公園広場で開幕した。ゆらめく灯籠と花火の光が湖面を彩った。（大原智也）

まつりは1906年（明治39年）に地元住職が大沼での水難犠牲者を供養するための灯籠を水面に浮かべ、法要を営んだことから始まった。

この日、JR大沼公園駅から会場までの灯籠パレードには「千の風になって」を訳詞、作曲した新井満さんも参加。特設会場での慰霊祭では、参列者が僧侶の読経とともに手を合わせた。

灯籠流しでは、あかりのついた灯籠を参列者が手に持ち、岸から流すと、いくつもの光が揺らめきながら、湖面を彩った。訪れた人たちは幻想的な情景をじっと見つめていた。

最終日の25日はしまいろうショー（午前10時と午後1時）のほか、灯籠流し（午後7時）、2千発を打ち上げる大花火大会（同8時）などが行われる。

大沼を幻想的な光で満たした灯籠流し（石川崇子撮影）

道内最大規模1万3千株

色鮮やかアジサイ園

函館「フェスタ」ににぎわう

道内最大規模の「アジサイ園」を観賞できるアジサイ・フェスタが24日、函館市上湯川町の市民の森で開かれ、訪れた家族連れが白や紫の色鮮やかなアジサイを楽しんだ。

昨年に続き2回目。函館市住宅都市施設公社が、園内に21種約1万3千株が群生するアジサイの魅力を伝えるために開いている。

フェスタでは、アジサイを使った絵手紙作り体験や、クイズラリーなどの催しが行われた。園内を散策した同市山の手の主婦佐藤洋子さん(68)は「口紅みたいに赤く色づいたアジサイは初めて見た。紫色だけではなく、いろんな種類を満喫できた」と笑顔で話した。

フェスタは25日まで。アジサイは9月上旬まで順次咲いていく。（高田大登里）

白色や紫色のアジサイを観賞できるアジサイフェスタ

「孤立死は減らせる」

函館　遺品整理業者が講演

遺品整理の現場から見た「無縁社会」についての講演会が24日、函館市本町のホテル法華クラブ函館で開かれた。日本初の遺品整理業者、キーパーズ（愛知県刈谷市）の吉田太一社長(46)が「地域とのつながりをつくれば孤立死は減らせる」と講演した。

北海道介護支援専門員協会（函館）が、事業総会の一環として開催。吉田さんは、同社への遺品整理依頼は年間1500件に上り、うち2割が孤立死に関するものと紹介。続いて孤立死の現場近くの住民らの困惑を描いたアニメーションや実際の現場写真を放映した。

遺品整理の現場から孤立死を防ぐ対応について説く吉田さん

吉田さんは、遺品整理の生前依頼や、中高年男性の孤立死が増えている問題について、地域での人間関係の希薄さを指摘。「人とあいさつしたり、友達を増やすことが大切」と力説した。（高田大登里）

議員定数、歳費　5委員が議論

議会諮問会議

【福島】町議会のあり方について協議する「議会諮問会議」の第3回会合が24日、町議会で開かれ、議会事務局が、2011年9月の次期町議選以降に適用すべき議員定数や議員報酬に関する資料を提出し5委員が議論した。

資料は全国町村議会議長会方式（別表）など6つの議員算定方式を紹介。町財政逼迫などを背景に2007年9月から16人分を12人で分けている歳費を元の12

低でも24%増、最高2・5倍となる。

委員からは「アンケートなどで町民の意見を聞きたい」「ここで一定の結論を出そう」などの意見が出された。

街頭で交通安全PR

函水産高生に感謝状

函館中央署

生徒手作りの街頭にオリジナルの交通安全標語を記載し、街頭啓発を20年続けている函館水産高ボランティア部と生徒会に対し、函館中央署は23日、感謝状を贈った。

街頭啓発は1990年ごろにスタート。実習で作ったサケやサン

マの街　「交通　ク」よ　ンマん　よう」　中寺に　標語を　の目道　ーに手　を呼び　回署　から感　た。細　年」は　画して

[illegible]